

平成 29 年度 第 2 回東京都北区環境審議会 議事要旨

日時： 平成 29 年 8 月 23 日（水） 10:00～12:00

場所： 北とぴあ 14 階 スカイホール

【出席者】

< 委 員 >

丸田 頼一	会長	細見 正明	副会長	柳井 重人	委員	小川 芳樹	委員
秋山 香織	委員	秋山 健太郎	委員	小山 文大	委員	原 芳子	委員
齋藤 邦彦	委員	尾花 秀雄	委員	加茂 守啓	委員	榎本 はじめ	委員
宮島 修	委員	名取 ひであき	委員				

< 事務局 >

早川 雅子	生活環境部長	土屋 隆	生活環境部リサイクル清掃課長
佐藤 秀雄	生活環境部環境課長		

【次 第】

1. 開 会
2. 議 事
 - (1) 「(仮称) 第 2 次北区地球温暖化対策地域推進計画」の策定について
 - ①計画の基本的事項等について
 - ②温室効果ガスの排出状況と将来予測について
 - (2) その他
3. 報 告
 - (1) 「北区環境基本計画 2 0 1 5」の進捗状況について
4. 閉 会

【配付資料一覧】

1. 平成29年度第2回東京都北区環境審議会次第
2. 東京都北区環境審議会座席表
3. 東京都北区環境審議会委員名簿
4. 資料 1 計画の基本的事項等
5. 資料 2 温室効果ガスの排出状況と将来予測

6. 参考資料1 23区の策定状況
7. 参考資料2 区民・事業者意識調査の回収状況
8. 参考資料3 北区的环境（平成28年度実績）

【傍聴人】

傍聴人 1名

【議事要旨】

1. 開会

2. 議事

< 議事 1 - ① >

○事務局 ー資料説明ー

○委員

10頁のみ和暦が先で西暦が後に記載されているが書き方を統一してほしい。また、23頁、車の所有台数について、車の所有台数も重要だが、どのくらいの車がハイブリッド車等の環境に配慮した車なのか分かれば知りたい。

○事務局

年次の表記は、ご指摘のとおり統一する。

低公害車の普及状況等の整理及び計画書への記載を検討する。

○委員

計画書の構成は、基本的事項、排出量、将来予測の後に施策の議論に入るのか。また、区のこれからの施策について審議するには、これまでの施策の取組状況を評価する必要がある。自然条件や社会条件のみで次の施策を考えるのは難しい。施策の評価をまとめたものを提出してほしい。

○事務局

構成に関しては、おっしゃる通りである。

アンケートの集計結果とあわせて、現行計画の施策の進捗状況や評価を行う予定である。

○委員

計画では、世界、国、都の動向が書かれているが、区民が自分のこととして受け止められるように北区における温暖化の影響と考えられる身近な事例を入れてほしい。

○事務局

できるだけ身近に感じられるように、どのような事例を掲載できるのか検討する。

○委員

地球温暖化の説明文については、熱が温室効果ガスに吸収されて、地表面へ戻されるところまで記載したほうがわかりやすい。また、IPCCの図は反射しているようにみえるが、IPCCでそのように掲載しているのか。

また、2ページの温室効果ガスの内訳の図については、CO₂以外の温室効果ガスはCO₂換算したものなのだろうか、換算したなら、そのことを記載したほうがよい。4ページの、温暖化の影響では、海氷が融解しているとの話しだが、山岳の氷河が溶けていることも加えてほしい。17ページの住宅の省エネルギー設備について、住宅窓の二重サッシ、太陽光を利用した発電機器は23区平均よりも少ないが、この差はなぜあらわれたのか。

○事務局

IPCCの図は、文字等を見やすいように加工しているが、図はそのまま掲載している。ご指摘の点については、内容を検討し適宜修正・補足を行う。

住宅の対策については、グラフで示した平成25年度時点では窓の断熱回収は助成制度になく、平成28年度に助成制度が改正されたのが原因ではないかと考えている。

○委員

21、22ページの工業では2013年度のみ従業者数の値が高く、商業は2004年度、2007年度に大きな差があるが、理由は何か。24ページの図3-21の公共施設は凡例が分かりにくいので、色を調整してほしい。社会的条件に加える内容について、地域再開発事業の話は、これからエネルギーや環境の開発を行なう場として良いと思うので、地域の開発事業等については追加記載してほしい。

○事務局

ご指摘の点については、内容を検討し適宜修正・補足を行う。

○委員

本計画でなくても、いつかは北区として環境税を盛り込むのかどうか伺いたい。

○事務局

環境税を盛り込むのは難しいと考えている。

○委員

17頁の省エネ設備の設置状況で「二重サッシ」、「複層ガラス」を取り扱っていると、区民はこれらを設置しないといけないように感じるのではないかと。計画は区民に強制的に何かさせるものではないので、啓発と意識づけを重視した方がいいのではないかと。

○事務局

計画を説明する上で、数値データは必要である。本計画では省エネなどを強制する意味ではなく、目標という形で区民に取り組みをお願いする。

○委員

北区の地球温暖化での具体的な影響を掲載して頂けるとのことだが、農作物等食料の変化も掲載してほしい。地球温暖化をよく知らない人には北区の地域特性が地球温暖化にどう関係しているか分からないと思うので、データを載せた根拠とその結果が地球温暖化にどのように影響するのか補足してほしい。例えば、なぜ緑被が掲載されているのか。なぜ世帯数が増えることが温暖化に関わるのかなど。

○事務局

ご指摘の点については、内容を検討し適宜修正・補足を行う。

○委員

ヒートアイランドについて、現状では数箇所にもたがって断片的に記載されているが、1箇所にまとめた方が分かりやすい。日本は世界的に見てもヒートアイランドが特にひどい、なぜ都心でひどくなったのか。ヒートアイランドは急に起きたわけではなく、歴史がある。今までの川や緑の位置等、都市施策の小さな積み重ねの結果、ヒートアイランドが生じた。ヒートアイランドが起きた原因と結果、未来どうなるかを論理的にまとめてほしい。北区らしい施策になるように、例えば、現状の川やみどりの配置等を踏まえた計画的な土地利用等、いろいろな対策を今後の課題として考えてほしい。

○事務局

ご指摘の点については、内容を検討し適宜修正・補足を行う。

< 議 事 1 - ② >

○事務局 ー資料説明ー

○委員

15, 16頁について、温暖化対策として効果をだすには、家庭部門において削減しないといけないということだと思う。北区の世帯数は増加傾向で、65歳以上の割合が高く、一戸建てよりも共同住宅が多いことが特徴である。これを踏まえたうえで、そのような世帯をターゲットにして、家庭部門から排出量を削減する必要がある。年齢層別には北区にはどの層が最も増えているのか、また、共同住宅はどの層が多いのか、わかれば教えて頂きたい。温暖化対策として、共同住宅が多いなら、それに併せた施策が必要になるだろう。

○事務局

ご指摘の人口や世帯数についての資料を検討する。北区においては、民間のマンション建設や北区子育て施策等により若年層が増えているが、全体としては高齢者の人口が多い、都営住宅が多いという特徴があると思う。この特徴を踏まえて施策を考える。

○委員

1頁～3頁の算定法では、東京都のデータからの按分などの方法で東京都の全体の傾向と整合がとれると思うが、農業や都市ガスなども、同様に都の全体の傾向と整合性がとれているのか。

○事務局

東京都との整合性はとれている。

○委員

現行計画の目標として2008～2012年に2%削減と記載されているが、京都議定書の国の目標である6%削減せずに2%とした理由を教えてほしい。

○事務局

当時の将来推計をもとにして、北区において可能な削減量を設定したものである。

○委員

その現行計画の設定方法でよいと思う。国で26%削減と記載しているからといって、必ずしも26%とする必要はない。現実的に削減可能なことから行えばよいと思う。

8項、産業部門の新築着工面積が、平成26年度が急に増えているが理由は何か。全体的に東京都として上がっているのか、それとも区でなにかあったのか。

○事務局

2006年に建築基準法が改正され、この改正で審査が厳しくなり駆け込みの新築建築が増えたのではないかと思われる。

○委員

都全体で増えたのなら問題ない。将来推計については、17、18頁では現状のまま推移した将来推計が示されているが、今後、これからの施策を行うことで削減する分を見込み、そのうえで推計するのか。また、各部門の施策で何%削減する等の、部門ごとの削減量も出すのか。さらに、26%を削減目標にして、施策ごとの削減量も算出するのか。

○事務局

これからの施策による削減量も考えて推計する。また、施策ごとに削減量を算出する考えである。

○委員

排出係数について、2013年の排出係数で固定し将来推計している。現在、原子力発電が停止していて、化石燃料を用いた火力発電を行っているため、今は電力の排出係数が高くなっているが、将来は変わると思う。これについてはどのように考えているのか。

また、ハイドロフルオロカーボン（HFC）はオゾン層破壊の代替フロンとして現在増加しているが、排出係数が高いので、国際的に減らそうという動きがある。将来減る方向になると思うが、現状の条件で、推計するのは適切なのか。いろんな問題があるので、書き方をしっかり考える必要があるだろう。特に、ハイドロフルオロカーボンが目立って増えていることに奇異な印象を受ける。

家庭部門では、排出量を減らす必要がある。この施策として、カーボンオフセットを自発的に行えるような仕組みを工夫したらどうだろうか。カーボンオフセットをした家庭が認められれば、がんばる人がでてくるのではないか。

例として、最近、再生可能エネルギー100%にするために、企業ではグリーン電力証書を買っている。カーボンオフセットが認められるような仕組みを北区でも取り入れると良いので

はないだろうか。

○事務局

ご指摘の点については、内容を検討し適宜修正・補足を行う。

< 議 事 2 >

○委員

議題2の「その他」の事項について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

区民・事業者意識調査の調査状況について報告する。

—概要説明—

○委員

アンケートには何かしらのリマインドはあるのか。回収率が悪いので、リマインドすることで、回収率をあげることができるのではないか。

○事務局

残りの期間が少ないのと経費がかかるため、リマインドすることは難しい。

○委員

今回アンケートを実施した事業所のうち、北区で入札登録をしている事業所の割合がわかったら教えてほしい。

○事務局

無作為で選んでいるので、入札の業者がどの程度の割合で含まれているのかデータはない。

○委員

たとえば、エコアクション21をとっても北区は評価してくれない。北区も加点制度を入れてほしい。企業を評価したら、アンケートの回収率もあがるのではないだろうか。

○事務局

ご指摘の点については、検討する。

○委員

今回、北区の地球温暖化対策は現状と将来予測が提出されたが、適応策も示してほしい。緑被は適応策の内容に入れると良いのではないか。適応策の全体像がどうなるのか、北区の適応策はどのようなことができて、どのようなことが考えられるか、示してほしい。

○事務局

次回の審議会で、具体的なアンケート結果や適応策や取組みを示す。

3. 報 告

< 報 告 1 >

○事務局 ー概要説明ー

○委員

進捗状況を数値として記載しているが、取組みをどこまで行い、何が次の課題なのかといったことを、特に北区が重点的に取組んだ施策に対して記載してほしい。

温暖化対策も含め、全体を通して、北区は他の区と比べてどうなのか、特徴を述べてほしい。

○事務局

ご指摘の点については、今後対応することを検討する。

○委員

本日の次第は全て終了した。

これにて平成 29 年度第 2 回東京都北区環境審議会の議事を終了とする。

4. 閉 会

以上